

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「聖書宣教会での学びと説教」

聖書宣教会理事 栄聖書教会牧師 末松 隆太郎

「あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」
(使徒の働き 2:11)

ペンテコステのためにエルサレムに上って来た礼拝者は、弟子たちが様々な言語、言い換えれば「心の琴線に触れる」ことばで神のみわざを語った事に驚きました。これが、聖霊が下されたゆえである事を、私たちは知っています。

しかし、これより前に弟子たちに起こった変化にも目を留めてみましょう。彼らは聖書を学び、メシヤの到来も、神のみわざの世界大の拡がり、メシヤの平和も知識としては知っていたと思われまふ。しかし、現実にキリストが世に生まれ、十字架につけられ、復活されても、「目はさえぎられ」(ルカ 24:16) それと分かりませんでした。あんなに主の傍にいたのに、です。

しかし、復活の主が、弟子たちと共に歩まれ、「聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを説き明かされ」(同 27 節) て、初めて学んだ知識が、起こっている事実、その意味、自分との関係が感動をもって理解できました。

現在、神学校で学ぶことを中心は、聖書全体を学び、神のみわざを正しく知る事におかれまふ。それは、知的な作業を伴いますが、素晴らしい教師陣を通して、復活の主(聖霊)が個々の学びに歩を合わせ、教えておられる幸いな時でもあります。

しかし、宣教会の卒業生が牧師として立てられ、講壇の奉仕に立つと、次の課題にぶつかります。それは、いかに聞き手にみことばを取り次ぐか、と言う事です。原典にあたり、苦しみながらも最善と思って準備した事を、霊的感動を語っても、何やら思いが空転しているように思える事が起こるのです。何やら、聞き手の「心の琴線」に触れてはいない感覚が残るのです。

では、聖霊はどのようにして、今の時代に琴線に触れる語り手を作られるのでしょうか。

ここからは個人の見解ですが、鍵は、説教準

備のためにかけたのと同じエネルギーを、説教に耳を傾けた者から聞く事にかけての事と思われまふ。それでは、「聞く」事の現場はどこにあるのでしょうか。



小グループは「聞く」事の第一の現場です。講壇からのメッセージの分かち合いと具体的な適用を働きの中心に置くと、人々がみことばをどう聞いているのかが分かります。参加者は、小グループ内での信頼感が増せば、それぞれの状況、思考、心の悩みや迷いなど内側の事も、自由に話します。この現場で、何を「聞く」のかを学ぶのです。メッセージが正しく伝わっていないとすればなぜか、メッセージは個々の状況に対して適切に語られたか、を謙虚に判別します。恐れ、抱えている問題も知らされ、メッセージの切り口や、語るべき内容が示されます。素晴らしい信仰の応答に触れ、こちらが慰めや励ましを受ける事、聖書の深い理解が与えられる事も起こる現場が小グループです。

第二の「聞く」現場は妻からです。女性の多くは彼女に、個人的な幸いも課題も語りまふ。この中で蓄えられた愛の働き、人間理解は貴重です。女性には女性にしか分からない心の動きがあります。妻がメッセージの良き聞き手となってくれば、「聞き手」の代表として良き助言の宝庫となります。そこに語り手への励ましとスパイスの絶妙なバランスがあれば言う事なしですが。

やがて、時々ではあったとしても、聞く者の「母国語」(心の琴線に届くことば)で講壇から語る事ができれば、これこそ説教者が今も「聖霊」によって語ると言う事だ、と私は信じています。



左より：横田、末吉、高野、高宗、依藤、前原

氏 名	出身教会	奉仕教会
(聖書神学舎本科) [5名]		
末吉文	鷺沼キリスト福音教会	鷺沼キリスト福音教会
高野望	新湊キリスト教会	みなみ野キリスト教会
前原将太	杉戸キリスト教会	杉戸キリスト教会
横田真理恵	つつじヶ丘キリスト教会	浜田山キリスト教会
依藤慎太郎	友愛キリスト教会	和泉福音教会

(聖書神学舎聖書科) [1名]

[聖書専攻]

高宗昭雄	鹿本キリスト教会	日本福音キリスト教会連合	東村山キリスト教会
------	----------	--------------	-----------

寄り添われる神

前原 将太

主イエスの御愛によって光の道に連れ戻された私は、塾の講師として新たに信仰生活を始め、支えられながら熱心に働きました。

しかし、二年目に東北の震災と福島原発事故が発生しました。そこで私は文明の危うさと人間の欲望に衝撃を受け、このまま子供達を立派に育て彼らに未来を託すだけでは済まないのではないかと自問し始めました。

やがて祈りの中で、献身の思いに導かれていった私は杉戸キリスト教会の野町牧師にご相談しました。すると先生は聖書をもう一度じっくり読むように言われ、私はペテロの手紙第一、5章2節から4節との出会いによって、牧会者としての召しを確信しました。

その後聖書神学舎で聴講生として学びつつ教会で奉仕させて頂きました。そこで私の立派な信仰ではなく、愛ゆえに十字架の死によって私たちを贖い、今も不完全な歩みに寄り添われる神を深く知りました。どうかこれからの学びと奉仕のためにお祈りください。

主の導きに感謝して

高宗 昭雄

「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう。」(詩篇73篇28節)

この聖句が献身にあたり与えられたみことばです。十数年来献身への思いを抱きつつも、なかなか前に進めなかった私ですが、早期退職を選択する年齢になり、退職の道を選びました。母教会で牧師を通して語られる福音の恵みにあずかる時、私も「福音の恵み」を語る者になりたいと思うようになりました。

「残された人生をこの世の空しいことに使いたくない。」主が用いてくださるなら、主のために使っていきたいと思いました。

そして、語るからには、語る者としての学びと訓練を受けたいと、聖書宣教会で学ぶことを願いました。あわれみにより、主は一つひとつ道を開いてくださり、宣教会での学びを備えてくださいました。主の導きに感謝し、これからの道を歩んでいきたいと思えます。



左より：林、矢吹、石井、佐藤、畑田、香川、本屋敷

氏 名	奉 仕 先
(聖書神学舎本科卒業) [7名]	
佐藤 陽 一	神栖 ^{かみす} めぐみキリスト教会 日本福音キリスト教会連合
石井 陵 太	浜田山 ^{はまやま} キリスト教会 日本福音キリスト教会連合
畑田 祐 二	千種 ^{ちぐさ} キリスト教会 日本同盟基督教団
矢吹 祈	栄聖書 ^{さかえ} 教会 日本福音キリスト教会連合
香川 直 樹	下関キリスト聖書教会 単 立
林 武 志	横須賀中央教会 日本同盟基督教団
本屋敷 一 彦	鷲沼 ^{ささぬま} キリスト福音教会 日本福音キリスト教会連合

「主からの召しの確信」

佐藤 陽 一

聖書宣教会に入会して、過酷さは想像していたが実際はそれ以上だった。「もう無理だ、辞めよう」と何度も考えた事を思い出す。しかしその度に、主は私に踏みとどまる道を示してくださった。以前は自分の力で道を切り開く生き方をしてきた自分だが、主に信頼し拠り頼むことしかないことを痛いほど思い知らされた。

主からの召しを確認し続ける日々でもあった。ヤコブの手紙3章1節「私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです」をいつも意識していた。召されたことの緊張と覚悟、しかし大きな喜びと主への感謝も共にあった。共に喜び、支えあえる学友を与えられたことも感謝だった。

主のみことばを正しくはっきりと伝えていくことが続けられるようにと願う。とても主の働き人としてふさわしいとは思えない自分だが、でもその願いは聞かれるであろう。なぜなら主が私を召したのだから、これほど確実なことはないからである。

「神様の導きを頼りにして」

石井 陵 太

聖書を学ぶ楽しさ。同じ志を持つ仲間との交わり。忙しさの中にあっても、心の奥から湧いてくる喜びを持って、この4年間を過ごしてきました。本当に、楽しかった！

私にとってこの4年間は、神様からの召しをさらに確信することができた日々でした。必要なものは、必要な分だけ必要な時に与えられてきました。「この道を進んでいいのだ」と、神様からの召しを何度も確認させていただきながら歩んできた4年間でした。

研修生活を終え、いよいよ遣わされていこうとするときになって改めて思い知らされる自らの欠け。「どうしてこんな者が神様に仕え、人を助けることができるだろうか」と思わずにはいられない自分の足りなさを前にして思うことは、ただ神様が召してくださっているから進むことができるのだということです。神様の導きを頼りに、これから先の歩みを一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

「もものつがいを打たれて」

畑田 祐二

入会時、「卒業時には神と格闘してもものつがいを外されたヤコブのように自分自身はぼろぼろにされ、代わりに、主への信頼を確かにして欲しい。」こんな励ましをいただいたように覚えています。その通りの4年間でした。すべてを捨てて献身したはずの自分のうちに未だ拭われていない罪やプライド、不誠実や不真実があることを示され、神の前にただ頭を垂れること幾度でした。しかしこの経験は、これからの働きの根拠を自分自身に求めず、真実なる主に拠り頼むことを学ぶための神様からの愛のムチだったと思います。私には何もない、神がすべてである。こんな単純なことをこの学び舎で学ばせていただきました。恵みによってもものつがいを打っていた者として、足を引きずりながら、けれども真実なる主を見上げ信頼して、みことばに聴き、絶えず祈り、神と人と教会を愛して、謙遜に主のみわざにお仕えしていきたいと思えます。(コリント人への手紙 第二4章5節)

「学び舎で残ったもの」

矢吹 祈

この学び舎での学びと訓練が終わった。しかし何の達成感もない、何かを越えた気もしない。ただ4年という時間が過ぎただけ、そのような気にさえなる。たしかに、この学び舎で多くを学んだことは事実だ。しかし、それ以上に自分の無力さ、無知さをひたすら教えられた。自分の力や知恵に頼ることがどれだけ危険なことであるかを痛感した。その中で、一つだけ言えることは、神に全てがあるということだ。自分にはなく神に栄光を帰し、自分のことばではなく神のことばを語り、自分の力ではなく神の力によって働きがなされる、これが4年間の学びを終えた私の確信である。

また、沢山の方の祈り無くしてこの4年間はなかったと言える。献身者として祈られることの大切さをひしひしと感じた。祈りが大きな力となることを体験させられた。この聖書宣教会通信を通して今も祈ってくださっている沢山の方々にかから感謝をします。

「主に導かれて」

香川 直樹

「主に導かれて」これは入会当初から私が常に意識してきた言葉です。日本の超教派神学校で学びたいという志が与えられ、主は私たち家族を聖書宣教会に導いてくださいました。感謝なことに、同年の入会者は12名、出身教団、教派は実に多彩でした。恵まれた環境の中で、沢山の刺激を受けながら学ぶことが出来ると喜んでいたのも束の間。宣教会の本当の特徴である「原語からの聖書

の学び」とは如何なるものであるかを次第に知らされました。それは翻訳聖書に頼らず、原語からみことばの意味を理解するという壮絶なものでした。全体像の見えない、無数のパズルピースを一つずつ正しい場所に置いてくような地味な作業の連続でした。幾度も挫折を味わい、投げ出したくなりましたが、その度にみことばによって励まされました。卒業を迎えようとしている今、達成感など何もあります。ただ言えることは、ここまで導いてくださったのは、主であったということです。

「この3年間を振り返って」

林 武志

この3年間を振り返ってみると、「感謝」の一言に尽きるといえます。それは、第一に、この学び舎で無事、3年間過ごすことができたからです。この3年間、私たちを祈りにおいて、また具体的な献げ物によって支えてくださった方々に感謝します。私たちを霊的に、また経済的にも支えてくださり、ありがとうございました。

第二に、この聖書宣教会において、多くの先生方、兄弟姉妹に感謝します。先生方、兄弟姉妹と良い交わりを持ち、キリスト者としての良い見本に多くのことを学ぶことができ、感謝します。

第三に、聖書の学びにおいて多くのことを学ぶことができ、感謝します。先生方の御労に感謝します。いつも拙いレポート、試験の解答で先生方を悩まし、申し訳ありませんでした。

この学び舎で学んだことを、これからの牧会に活かし、より良き牧会者として励んでいきたいと願っています。ありがとうございました。

「軟着陸から再離陸へ」

本屋 敷一彦

この3年間は「軟着陸から再離陸」に向けた準備の時でした。私と妻は日米合同教会の皆様に見送られながら、ニューヨーク市を後にしました。当初は環境変化による心理的な動揺がありました。しかし比較的スムーズに順応することができました。これは、母教会である仙台福音自由教会、奉仕教会だった東京武蔵野福音自由教会・清瀬福音自由教会の皆様が温かく受け入れてくださったおかげでした。聖書神学舎では、先生方の懇切丁寧なご指導により、牧会者となるための基礎を学ばせていただくことができました。研修生・家族寮の皆様とも楽しい時を共にさせていただくことができました。

無事に卒業を迎え、4月から鷺沼キリスト福音教会に任せさせていただく機会が与えられたことに感謝します。最後になりましたが、3年間私たち夫婦を守り、恵みとあわれみによって導いてくださった主に栄光をお返しします。

図書館から

図書館長 津村 俊夫

一般に、学問の手続きや方法論がとかく議論される時は、その学問自体が不毛であると言われます。現代は、聖書を読む方法や、解釈の方法論が大きく取り上げられている時代ですが、それと反比例して聖書を読む力が低下している時代であると言えるのではないのでしょうか。「聖書そのもの」を、ギリシャ語、ヘブル語原典で、地道に読み続ける牧師・伝道者が、今の時代、特に必要だと思います。アイルランド人のリバイバルの説教家で 28 歳で召されたトーマス・ウォルシュ (Thomas Walsh) は、聖書によく通じていたことの証として、誰かがギリシャ語かヘブル語のことばを質問すると、それらのことばが聖書のどこに、どういう意味で出てくるかを言いあてることが出来たと伝えられています。人の意見に振り回される「聖書学」学ではなく、教会がそれによって立っている「聖書そのもの」を読む力をつける真の「聖書学」こそが教会にとって今再び必要になっているのではないのでしょうか。

私の学生時代に、ある信徒伝道者の方に、こう言われたことを今も鮮明に覚えています。「津村君。牧師は忙しすぎて聖書を読む時間がないから、私たちが頑張らなければならないよ。」あれから半世紀がすぎた今、そのような傾向は、福音主義の教会においてすら強くなって来ているように思います。今こそ、聖書に強い牧師が必要とされているのではないかと思います。注解書を読むのに時間をとられて、「聖書そのもの」を読む時間がないならば、本末転倒と言わざるを得ないでしょう。ESV Study Bible (Crossway, 2008) のような、オンライン (<http://esvstudybible.org>) でも読める、福音主義に立った優れたスタディー・バイブルを補助手段 (地図・図表・検索機能) として活用しながらも、「聖書そのもの」を原典で読み進めることによって、確かな「聖書力」を身につけて行きたいものです。

《近況と祈りの課題》

- 今春の卒業生をはじめ、各地で主に仕えている同窓生のためにお祈りください。召して下さった主の栄光のために精一杯仕えることができるように。また、日本中、世界中で主に仕えている伝道者たちのために。
- 研修生のためにお祈りくださりありがとうございます。主に喜ばれる学びと訓練の日々を歩めるように、また、主がすべての必要を満たして下さるように続けてお祈りください。
- 教職員の健康と奉仕のためにお祈りください。また、将来の人事の面でも、主が最善に導いて下さるようにお祈りください。
- 今夏のキャラバン伝道チームは、「いっぱい宝石・大槌」(岩手県)、「奈良福音自由教会」(奈良県)、「ともしび聖書チャペル」(熊本県) の三箇所まで奉仕させていただきます。
- 財務の面でも主の恵みに感謝を新たにしています。別記、別紙の通りで、主の民の手を動かして、主のわざのための必要を備えて下さる主に、感謝と賛美をともにおささげください。

編集後記

国の内外の不安定を憂い、人の内側に巣くう憎しみや恐れ闇の深さを見つめながらも、私たちには、上を見上げて主に申し上げる特権が与えられていることを感謝します。隣人のために、為政者のためにとりな

して祈る務めを大切に担ってまいりたいと思います。神学生と神学校のためにお祈りくださる皆さまに、いつも感謝しています。これからもよろしく願いたします。(A)